

なごみかぜ工房（就労継続B型）

現在、契約者数が26名、日中一時利用者が13名、合計39名の方が利用されています。障がいの内訳としては、知的障がい・身体障がい・精神障がいに加えて、高次脳機能障がいや病気による後発的な身体障がいの方など、複雑多岐にわたるようになってきています。研修会の機会を確保し支援のスキルを上げていく必要があると思います。

利用者工賃については、月額7,000円からスタートし、現在は12,000円にまで順次引き上げてきました（賞与を含めると月額13,527円）工賃アップはなかなか厳しい現状ですが、新商品の開発に積極的に挑戦し売り上げ増に引き続き努めていく必要があります。また、優先調達法による行政からの受注額の増も成果をあげていく必要がありますが、なによりも受注額を増やすためには商品（役務）の品質及び種類のレベルアップを実現しなくてはなりません。困難なことだとは思いますが、スタッフ全体の力で挑戦していきたいと考えています。また、ここ何年か年度末のお疲れさん会で賞与を支給してきましたが（就労事業の収支予測が困難なため年度末で調整してきた経緯もある）賞与は最後の調整にとどめ（ということは少額）、月額工賃をアップしていくことを検討したいと考えています。

施設環境的（手狭になってきている）あるいは新たな利用希望に応じていくために分場を検討していくという考え方を昨年度当初示しました。その後の動きですが、袋井市内で商業施設と住宅が混在する環境的に適する地域で物件が見つかりました。国の施設整備補助金申請を済ませ回答を待っている状況です。既に分場整備委員会（本部2名、なごみかぜ工房1名、風の森1名、風の駅舎番館1名のスタッフで構成）を立ち上げ、改修工事の打ち合わせや事業計画の検討を進めています。分場の開設目標は平成30年4月です。

就労支援事業として「カフェ」を開設します。順次、事業計画案を出していきます。アイデアや意見をどしどし出していただき、より良いものにしていきたいと思っています。

国は来年度予算（案）として、障がいのある人の「絵画」等を商品化する事業に対する補助金として1,990億円もの巨額の予算を確保する見通しであることが報道されました。ビッグチャンス到来です。これまでも福祉団体独自であるいは支援する団体等により活発に「障がいのある人たちの絵」が様々な商品として世の中に出されてきました。この動きが国の予算が大幅に付くことによって一気に加速するものと思われます。利用者さんの才能豊かな絵を商品として地域に広めていく好機到来です。ぜひ挑戦していきたい事業だと思っています。これについては、法人全体で取り組んでいきたいと思っています。

提案をどしどし出してください。

（文責：大場）